

審 議 経 過

3 審議事項

- ・第11次伊万里市交通安全計画について

（事務局）資料に基づき説明

（委員A）計画の概要版中、施策体系の表に講じようとする施策（7つの柱）と道路交通の安全対策として重視すべき5つの視点の関係を示してあるが、踏切道の整備の推進等という施策が、高齢及び子供の安全確保という視点と関連付けられているが（●の表示）、その理由を伺いたい。

（事務局）講じようとする施策と重視すべき5つの視点の関係性については、見方によれば、5つの視点すべてと関係しているため、施策体系をわかりやすく表すために、最も関係性が高い視点を高齢者及び子供の安全確保としている。

最も関係性が高いと考えている理由は、第4種踏切などを横断する高齢者や子供を守るという視点からである。

【計画（案）について承認】

●その他の意見

（委員B）今は横断歩道を渡る際に、手を挙げるのが消えて行っている気がする。意思表示は大事だと思うが、横断歩道に立っていても車が止まらなかったという経験から、子供たちに対して、手を挙げるという指導も減ってきていると感じる。

（伊万里警察署）信号機がない横断歩道での車の停車率は佐賀県で約20%、全国で約30%という状況である。警察としても、こういった状況を改善するために、歩行者の意思表示、手を挙げる、手を前に出すなどの意思表示の必要性について啓発していく考えである。また、警察で信号機のない横断歩道で、手を挙げるという意思表示を行った場合、約90%の車が停車したという結果がでたところである。

（委員C）国見山の登り口に電光掲示板があり、凍結時など道路状況に応じた表示がされているが、例えば水害の際の情報発信などを行うために、電光掲示板を市内道路に設置することは予算のこともあると思うが、難しいか。

（伊万里土木事務所）現在、大雨時の川の水位などは伊万里ケーブルテレビなどでライブカメラの映像を流すといった情報発信を行っており、今後はSNS等の活用などによる情報発信の強化に取り組みたいと考えている。施設整備については、新たな水位計の設置やライブカメラの設置に段階的に取り組みたいと考えている。また、国道204号の楠久津付近に、よく道路に水がたまる場所があるが、その対応として、電光掲示板を設置して大雨時には注意喚起を行っている。